

令和2年度 情報学部小論文試験についての全体講評

1. 出題の意図

出題は、ICT（情報通信技術）に関する文章を題材に、アドミッションポリシーにある「地域社会に貢献する情報技術の在り方について自ら思考し表現共有する力」を評価することを目的とし、ICTに関する基礎的な知識と理解、文章の読解力と議論にたる文書作成能力を問うものでした。

2. 採点・評価のポイント

出題は大問2問の論述式で、理解力を主に問う問題1と、議論を主に問う問題2からなっていました。

問題1

問1は、与えられたICTに関する文章の読解の力を問うもので、短い文章への適切な要約が期待されています。文章中には、その文章の主張を明確に示す段落や、段落の意味を顕わにする文が存在します。それらを、与えられた文章の論旨に沿う形で整理することが求められていました。したがって、重要な箇所を抜き出せても、それを単純に復唱するだけでは適切とは言えませんし、たとえそれが説得力に富んだものであっても、本文中に書かれていないことを追記してしまってもはいけません。

問2は、与えられた文章を題材に、ICTの利活用に対する功罪を地域社会の観点から論じるものです。問題文中にあるように「具体的な例」を引き、それに沿って回答することが求められています。また、「ICT技術を使えば地域社会の将来は発展する」のような抽象的な回答も不適切で、地域社会が「どのように」発展するか、「どのような」不安や問題が「どのように」解決されるかを明記しなければ、問いに答えたことになりません。なお、解答文中に挙げるべき事例は必ずしも与えられた文章の内容を使う必要はありませんが、全く無関係なICTの例を引き合いに出すことは、「この文章に代表されるようなICT」の部分と齟齬をきたしますので、必ずしも適切とは言えません。

問題2

問題2は、与えられたICTに関する文章に対する自分の立場を定め、地域社会におけるその立場が適切である理由を論じることを求めています。立場は必ずしも2値（つまり、「肯定」「否定」）だけではなく、部分的に受け入れられる、部分的にしか認められないという可能性もありますが、いずれにせよ立場が明確でないとそもそも議論に入れられないため、まず自分の立場を明確に表明する必要があります。

議論においては、自分の立場を支持する「根拠」と、その根拠が空虚でない「事例」を提示することが期待されます。自分の立場に立つと（あるいは、その立場に立たないと）「なぜ」地域社会や課題が解決される（あるいは、されなくなる）かを示したうえで、その「なぜ」に説得力を持たせる事例を適切に組み合わせることが、他者を納得させる議論の展開には要求されます。当然、立場とその根拠、根拠とその事例とは話がかみ合っていないとなりません。

この問題は回答者の考えを問うものです。「どの立場が適切であるか」という問いに対する唯一の明らかな答えはありません。したがって、論旨の明快さ、議論展開の適切さ（加えるならば、議論に出てきた内容そのものの正しさ）のみを評価の対象としました。なお、立場の適切性に関する議論とは無関係な議論、例えば、ICTの将来性や技術的諸問題などを論じることは、本来の論旨を曖昧にしまうため適切とは言えません。